

民国連携の実現に向けたケーススタディ会議と現地検討会について

令和2年7月3日

広島北部森林管理署

広島北部森林管理署では、平成28年度から国有林と国有林に隣接する民有林との協調施業、協調販売、路網の相互利用など民国連携した取組の実現に向けたケーススタディ会議を設け、これまで様々な活動を行ってきました。7月2日、神石高原町、神石郡森林組合、広島県林業課、広島県東部農林水産事務所及び広島森林管理署、広島北部森林管理署の関係者が出席し、令和2年度第1回目の会議を神石高原町三和協働支援センターで行いました。



ケーススタディ会議の様子

会議では、これまでの活動経緯報告に続き、今年度関係者が連携して取り組む活動について検討しました。具体的には、民国連携の実現に向け取り組んでいる森林共同施業団地の取扱いや、神石高原町森林整備計画策定への支援などについて意見交換を行ったほか、現在、広島北部森林管理署で検討を進めている地域と連携したニホンジカ対策についての説明を行い、その後多岐にわたる分野について議論しました。出席者からは「ケーススタディ会議終了後の新たな協議機関が必要。」「これまでの課題の整理と今後の取扱い方針を決めていく必要がある。」などの意見が出されました。



下川省略地での現地検討会の様子

また、ケーススタディ会議終了後に、通ヶ谷山国有林に会場を移し、一貫作業後の低コスト林業地(下刈省略地)において現地検討会を行いました。この中では、低コスト化における経費削減、低コスト林業を進める上での課題とその解決方法などについて意見を交わしました。出席者からは「下刈省略後の下刈作業の工期が明確にされていない。」「下刈仕上りの基準は」「下刈省略の場合の除伐実施時期は」などの意見が出されました。

広島北部森林管理署では、今回出された様々な意見を踏まえ、今後の態勢整備や課題の整理に取り組むとともに、これまでの民国連携の取組成果について、随時発信することで、成果の民有林への定着について、引き続き積極的に取り組んでいくこととしています。

今回の現地検討会資料については、整理の上、後日 HP にアップします。